平成２４年９月八峰町議会定例会会議録（第２日）

平成２４年９月１３日（木曜日）

議　事　日　程　第　２　号

平成２４年９月１３日（木曜日）午前１０時開議

第　１　会議録署名議員の指名

第　２　一般質問

出席議員（１４人）

１番　松　岡　清　悦	２番　見　上　政　子	３番　柴　田　正　高
４番　丸　山　あつ子	５番　門　脇　直　樹	６番　腰　山　良　悦
７番　皆　川　鉄　也	８番　福　司　憲　友	９番　山　本　優　人
１０番　佐　藤　克　實	１１番　阿　部　栄　悦	１２番　鈴　木　一　彦
１３番　芦　崎　達　美	１４番　須　藤　正　人	

欠席議員（０人）

説明のため出席した者

町　　長	加　藤　和　夫	副　町　長	伊　藤　　進
教　育　長	千　葉　良　一	総務課長	田　村　　正
会計課長	小　林　慶　範	企画財政課長	武　田　　武
町民生活課長	金　平　公　明	福祉保健課長	佐々木　　充
管財課長	鈴　木　久　明	税務課長	小　林　孝　一
教育次長	辻　　正　　英	生涯学習課長	金　田　千　秋
産業振興課長	須　藤　徳　雄	農林振興課長	松　森　尚　文
建設課長	田　村　　博	幼児保育課長	伊　勢　　均
農業委員会事務局長	米　森　博　孝	学校給食センター所長	木　村　　学
あきた白神体験センター所長	工　藤　金　悦		

議会事務局職員出席者

議会事務局長	嶋　津　宣　美	書　　記	船　山　厚　子

午前１０時００分　開　　議

○議長（須藤正人君）　おはようございます。

ただいまの出席議員数は14名です。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

本日の会議は、皆さんのお手元に配付しております日程表に従って進めてまいりたいと思いますので、宜しくお願いをいたします。

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第117条の規定により、10番佐藤克實君、11番阿部栄悦君、12番鈴木一彦君の３名を指名します。

日程第２、一般質問を行います。

順番に発言を許します。３番柴田正高君。

○３番（柴田正高君）　おはようございます。通告に従いまして質問いたします。

はじめに観光振興について、３点お尋ねいたします。

１つ目といたしまして、171億円の事業費と20年の歳月を費やした森林基幹道「米代線」が完成し、来月開通式を迎えます。この道路は、八峰町と白神山地南玄関口を結ぶ重要な観光路線となります。この路線を用いて、藤里口から白神山地を訪れる人をいかに八峰町に呼び入れるのか、そのための策は考えておられるのかお尋ねいたします。

また、人を呼び入れるためには、観光案内板の設置や、このルートを記載した新たなパンフレットの作成も必要と思いますが、その計画はあるのかお尋ねいたします。

２つ目といたしまして、白神山地が世界遺産に登録され、来年20年の節目となります。また、来年の10月からは、開催に参加する自治体とＪＲ６社、旅行エージェント、協賛企業等が協働して取り組む国内最大規模の観光キャンペーンが始まります。いわゆる秋田ＤＣであります。多くの人が秋田県を訪れるはずであります。八峰町を県内外にＰＲする絶好の機会でもあります。そのためにも、このＤＣの開催にあわせ、白神山地世界遺産登録20周年記念の式典やイベントの開催等を行うべきと思うのですが、町長の考えをお伺いいたします。

３つ目といたしまして、今も述べましたが、平成９年以来、２度目となる秋田ＤＣが来年10月から開催されます。おおよそ100億円の経済効果があると期待されております。八峰町でも参加をしております。

しかし、計画では、観光客は町を通過するだけとなっているようであります。これでは、町として多額の費用負担をする意味がないのではないでしょうか。計画の変更などの要請をされたのかお尋ねいたします。

ＤＣ期間中は、全国に町の自然や食、物産などをＰＲする絶好の機会であります。町独自の観光客滞在プログラムの作成や、能代市や隣の町と提携しての取り組みも必要なのではないでしょうか。町長の考えをお伺いいたします。

次に、使用目的と耐用年数の関係についてお尋ねいたします。

行政で何らかの目的を持って物品を購入した場合や建物を建てた場合、その物品や建物の耐用年数のある間は、その目的を果たすような使い方をする、またはそのように努めるべきだと思うのですが、町長はどのようにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

さて、町では、八森地区内の３子ども園を統合して、新たに八森小学校近くに建設する計画が進められております。近々、土地取得費などの予算が議会に提出されることと思います。

しかし、町の人口は、合併時の推計を上回るペースで減少を続けております。計算上では、80数年後には、町の人口はゼロとなります。

ＮＰＯ法人・地域知恵の輪の推計によりますと、23年後の2035年の町内の年少人口は336名だそうです。皆さんの通告書の数字は「36名」となっておるはずでありますが、私の資料の見誤りであり、「336名」が正しい数字です。訂正してください。お詫び申し上げます。

建造物が木構造かＳＣ構造かＲＣ構造かで耐用年数は異なりますが、いずれも３０年以上はあります。30年後の年少人口は、23年後の336名より更に落ち込み、200人台となっていると思われます。そうなりますと、町内の子ども園も小・中学校も１園・１校となっているのではないでしょうか。だとすれば、今計画されている子ども園の耐用年数を迎える前に、その目的を失することになるのではないでしょうか。ならば、30年先を見据え、将来、１園となっても対応できる場所に建設すべきと思うのですが、町長の考えをお尋ねいたします。答弁宜しくお願いいたします。

○議長（須藤正人君）　ただいまの３番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君）　皆さん、おはようございます。それでは、柴田正高議員のご質問にお答えをいたします。

はじめに、観光振興についてのご質問にお答えいたします。

１点目の「林業地域連絡林道「米代線」を活用しての観光振興策等について」でありますが、議員ご承知のとおり、米代線は、八峰町石川地区を起点に、能代市常磐地区を経由して藤里町藤琴地区に至る総延長約30ｋｍ、うち八峰町内は2,920m、幅員７ｍの林道であり、平成５年の着工から20年という長い年月をかけて計画的に整備し、来月19日に開通式を行う予定となっております。

本林道は、林業作業の機械化や集約化により低コスト林業が推進されるなど、地域林業振興に大きく寄与すると共に、周辺地域間を結ぶ日常の連絡路や災害発生時の緊急迂回路として地域生活に不可欠な路線となるほか、白神山地へのアクセス道として観光振興の面からも期待されております。

本町では、これまでも藤里町と連携し、白神山地体験ツアーやエコツアーなどを実践しておりますが、米代線開通により、更に両町間の移動時間が短縮されることから、本林道の利便性を旅行エージェントなどに売り込んでまいりたいと考えております。

また、能代市も構成員となっている秋田白神広域観光推進会議や、青森県西目屋村、弘前市などが構成員の環白神エコツーリズム推進協議会では、より広域的な観光連携について検討しておりますので、米代線の活用についても協議してまいりたいと考えております。

観光案内板の設置や新たなパンフレットの作成計画についてでありますが、観光案内板の新設や新たなパンフレットの作成は、現在考えておりませんが、道の駅などの施設の観光案内板や既存の観光ガイドブック等に内容を追記する方法で米代線をＰＲしてまいりたいと考えております。

２点目の「白神山地が来年世界遺産登録20周年を迎えることから、町で式典などの計画は考えているのか」についてでありますが、平成５年12月、白神山地と屋久島が日本で初めて世界自然遺産に登録されてから、間もなく20周年を迎えます。このことから、20周年記念行事については、環境省、林野庁、秋田・青森両県、そして本町を含む白神山地周辺市町村で構成する白神山地世界自然遺産地域連絡会議や、環白神エコツーリズム推進協議会、秋田県と能代山本地域の自治体で組織する秋田白神広域観光推進会議等で話し合われており、基本的には個々の市町村で式典を行っても、発信力が弱く効果が期待できないことから、できる限り多くの組織・自治体・民間が連携して実施することがベターであるとの考えでまとまっております。このことから、来年２月には登録20周

年記念プレイベントとして、弘前市において国・県・市町村・民間が連携したフォーラムを開催することにしており、登録20周年となる平成25年度においても、できる限り連携して式典やフォーラムを開催する方向で記念事業の内容を協議しております。

なお、八峰町単独の行事でありますが、春と秋の白神山地自然観察会の内容を充実させて実施するほか、ブナの植樹と連携したエコツアーの実施、旅行エージェントを対象としたタグツアー、いわゆる業者の現地視察、モニターツアーなどの実施を検討しており、この機会に白神山地の麓、八峰町を全国にＰＲしたいと考えております。

３点目の「平成25年10月からの秋田ＤＣに関連し、計画では、八峰町は観光客が通過するだけとなる。計画変更の見直しなど要請したのか」についてでありますが、ＪＲ及び秋田県では、デスティネーションキャンペーンの取り組みとして、今年10月から３カ月間をプレＤＣ、来年10月から３カ月を本ＤＣ、そして平成26年度をアフターＤＣと位置づけ、３カ年にわたり本県の観光と物産を全国に売り込むこととしております。この間の八峰町の負担額でありますが、本年度が44万3,000円、平成25年度が48万3,000円、平成26年度が28万2,000円と、青森ＤＣへの参加負担金と比較して小額となっております。

本年度のプレＤＣでありますが、先日の議会全員協議会において概要をご説明したとおり、９月28日から30日に首都圏で開催される集中キャンペーン「あきた食彩ウィークｉｎ東京」を皮切りに、10月17日には秋田キャッスルホテルにおいて、全国の旅行エージェント、ＪＲグループ、マスコミ関係者、県内外自治体、観光関係団体、観光事業者等約800人が参加予定の「全国宣伝販売促進会議」を開催し、秋田の魅力をプレゼンテーションすると共に、翌日からは７つのコースに分かれたエクスカーションも行う計画となっております。この全国販売促進会議は、私と担当課長のほか、水産加工業者や観光協会員が出席し、本町の観光・物産を大いに売り込んでまいりたいと考えております。

計画では本町を通過するだけではないかとのことでありますが、議員がご指摘する計画が、今年10月18・19日に実施されるエクスカーション、いわゆる模擬旅行の白神山地と五能線周遊の旅コースのことを言われているのであれば、このエクスカーションは、県内各地の隠れた観光素材や特色のある観光施設などを旅行エージェントなどに紹介する１回限りのツアーであり、このツアーそのものが今後の旅行商品となるものではありません。ただし、旅行エージェントなどに町の魅力を売り込む絶好のチャンスでありますので、当初、ＤＣ推進会議において示した模擬コースが、東能代駅からリゾートしらかみに乗車し、十二湖駅で下車後、十二湖散策など青森県側を視察という、八峰町をな

いがしろにするような計画となっておりましたので、計画見直しを強く要請し、結果として、藤里町のゆとりあ藤里を出発し、八森海岸のジオポイントや、あきた白神体験センターなどの観光施設を視察した後にあきた白神駅から乗車する案に変更されております。移動のバスの中では、八峰町観光ＰＲＤＶＤを放映するほか、職員が同行し、町の観光と物産をＰＲする計画であります。

独自の滞在プログラムや能代市などと提携した取り組みが必要とのことでありますが、あきた白神体験センターやハタハタ館など、それぞれの宿泊施設で既に滞在プログラムを実践しておりますが、更に内容を充実させるため、観光協会、宿泊部会などで協議しております。また、広域連携につきましても、能代山本観光連盟や秋田白神広域観光推進会議、ルート101観光連絡協議会などで協議しております。

議員がお話のとおり、ＤＣ期間中は全国に八峰町の自然や食・物産などをＰＲする絶好の機会であると認識しておりますので、官民一体となり、オール八峰で取り組んでまいります。

次に、目的と耐用年数からの八森地区統合子ども園計画の見直しについてお答えいたします。

柴田議員からは、昨年の９月と12月定例会の一般質問でも八森地区の統合子ども園を役場周辺にとのご意見をいただきましたが、八森地区統合子ども園のこれまでの経緯につきましては、これまで何度か説明してまいりました。ご承知のとおりでありますので詳しくは申し上げませんが、何回かのアンケート調査の実施や検討委員会での審議などを経ながら、地域住民の統合に関わる合意形成のため、多くの時間をかけ、慎重かつ丁寧に統合に向けた手順を踏んできたつもりであります。また、建設候補地についても、建設候補地選定委員会の答申を参考に、あわせて議会の皆様方のご意見や現地視察もしていただきながら、最終的に決定したところであります。

確かに各推計では、人口減少や少子化が進む予想であることは否定しませんが、現施設の老朽化への対応が急がれることや､時代に合わせた望ましい教育環境を整えること、できるだけ早期に保護者や地域住民の要請に応えていくためにも、現時点では八森地区統合子ども園は計画どおり進めてまいりたいと考えております。

今年度、学校適正化検討委員会で今後の小・中学校のあり方が審議されようとしていますが、峰浜地区の子ども園のあり方についての合意形成もいずれ必要になってくるものと認識しておりますが、まずは八森地区統合子ども園の早期完成と開園を目指して頑

張ってまいりますので、何とぞ温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

以上であります。

○議長（須藤正人君）　３番議員、１問目の観光振興についての再質問ありませんか。３番柴田正高君。

○３番（柴田正高君）　まずはじめに、米代線を活用した観光振興についてお尋ねいたします。

関係市町村との協議を行うと、町単独での利用、このルートを利用した観光振興は今のところ考えていないというようなご答弁でありました。これは町単独の米代線でないので、当然といえば当然かもしれません。町単独だとインパクトが弱いということも当然あるだろうと思います。しかし、今、町長の答弁ですと、全てこれから、関係する市町村と協議をするというようなことのようであります。開通は来月であります。このルート、冬期間はどうなされるのか。閉鎖されるのか、冬期間も車の往来ができるようにちゃんと除雪整備をされるのか、今のところ私は承知しておりませんが、町がリーダーシップをとるくらいの気構えで、このルートの活用に当たっていただきたいと思います。

次に、世界遺産の式典でありますが、これも同様で、町単独ではインパクトが弱いということで、関係する町村と連携して行いたいということのようであります。これも考えてみれば、八峰町だけの世界遺産でございませんので、なるほどそのとおりだと思います。しかし、このＤＣに関連して町にやはり人を呼び入れるというための一つの方策、イベントなり式典を行うということは方策になるんだろうと、私は斯様に思います。ですから、町単独の何らかの式典・イベント等もやっぱり必要だと思います。今一度お尋ねいたします。

それから、ＤＣについてでありますが、平成９年に、こまちの開業にあわせて秋田県で第１回のＤＣが行われました。その時は思ったほどの効果が上がらなかったようであります。今回はその反省も踏まえて、県で本腰を入れて、銀座に木村伊兵衛の大きなポスター写真も掲載されたと報道されておりました。それから、ＪＲの山手線や京成電鉄の車内広告にも、ぶら下がり広告にも広告が記載されるようであります。非常に力を入れて取り組んでいる事業であります。そうでありながら、町民に今一つ、この秋田ＤＣということが浸透されてないような、私は印象を受けます。私たちの仲間の集まりや何かでＤＣの話をしても、ＤＣって何だかと、初めて聞くというのが10人いれば10人が何だかっていうことであります。観光というのは、町民一人一人がやっぱりもてなしの心

を持たなければ、なかなか根付いた観光には繋がっていかないと思います。そういう意味でも、やっぱり町民にこのＤＣの持つ意味、中身等についてちゃんとやっぱり周知させる必要があるのではないかと思いますけども、そういう点についてはどのようになさるつもりなのか、お尋ねいたします。

○議長（須藤正人君）　１問目の再質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君）　柴田議員のご質問にお答えいたします。

まず米代線の関係ですけども、まず、この名前のとおり、林道として、広域的な林道として整備をされたと。第一には林業活性化を狙ったものであります。ただし、路線が開通したからには、当然、観光路線としても活用できるのは、これはそのとおりでございますので、今現在、まだそれをめぐるコース設定とかですね、その具体的なことは藤里町・能代市を含めてまだやってませんけども、ただ、既にこれまでもエコツアーであるとか体験ツアーは、藤里町・八峰町含めた形でいろいろ実施してまいっておりますので、よりこの路線が活用できるようになれば時間的にも短縮できますので、お互いに連携をした形でのコース設定をこれから検討していきたいなというふうに思っています。

それから、冬期間は、ご存じのとおりあそこは、あれを除雪しながらやるということはできませんので、冬期間は使いものにならないというふうに思います。従って、今は夏季期間中心のそういう利活用になるだろうというふうにこう思っています。

強いリーダーシップでやれということなんですが、それぞれ関連する市町もありますので、お互いによく連携をしながら、できるだけ有効な路線として活用できるように頑張ってまいりたいなと思っております。

それから、世界自然遺産20周年ですけども、町の単独で式典・イベント、やってやれないことではないんですけども、効果を見た場合ですね、来る人というのはやっぱり、白神山地は八峰町だけでなくて、或いは藤里町は遺産地域を抱えているといいながら藤里町だけの問題でなくて、来る人はやっぱり周辺全体を考えて来るわけでございます。従って、今日、八峰町にいれば明日は深浦町に行きたいとか、そういう限定したとこだけでなかなか来るような状況にないわけで、そういう面では、この世界自然遺産というのは共有のものでもありますので、全体的にこの地域全体をですね大きくアピールしていくということが、これからの観光にとっては非常に大事だと思っております。そういう意味で、いろいろ環境省であるとか林野庁であるとか、或いはまた両県であるとか、更には地域の周辺の市町村であるとか民間業者含めた形での連携の会議、更にはまた、

環白神を囲む市町村だけの会議とか、更にはまた101号線であるとか、様々な形で能代山本を含めてですね、そういう連携の中で、できるだけこの白神山地を大きくアピールしていきたいなというふうにこう思っております。もちろん私の方で式典が必要だというふうになれば、またそれは考えても決して悪いわけではありませんけども、今の中では、やっぱり全体として売り出していくということに力点を置きながら頑張ってまいりたいなと思っています。

それから、ＤＣに関してですね、いずれ９年の時は効果が上がらなかったという話もありますけども、県の方でも今年は、今年から26年にかけては、ミニＤＣ、本ＤＣ、アフターＤＣ、更には国民文化祭、一連の流れがございます。そしてまた、県の体制も観光スポーツ文化部ということで、これから秋田県の観光に非常に力を入れていくという方向になっています。そういう面での一つのその中でのＤＣということで、かなり大きな力を注いでいく計画になっております。その中で、我が町も一緒になって頑張っていきたいなというふうに思っています。

ただ、ご指摘されたように、町民の方にＤＣって何だという、判らない人もいるというご指摘を受けましたので、町民を巻き込んでですね一体としてこの八峰町が売り出していけるようにいろいろ工夫しながら、その点についてはこれから関係の団体ともいろいろ相談をしながら、多くの町民が理解し、更にはまた、それにまたできるだけ参加できるようにですね頑張ってまいりたいなというふうには思っていますので、宜しくお願いしたいと思います。

○議長（須藤正人君）　３番議員、再質問ありませんか。３番柴田正高君。

○３番（柴田正高君）　それこそ藤里口から、また、西目屋口から白神山地に訪れる人たちをいかに町の方に呼び入れるのかというのが非常に大事になるわけです。それこそ八峰町側から白神山地に訪れる人数が年々減ってきているということでありますので、そのためにも、やはり他の町村と連携して、お互いに、八峰町側から白神山地に訪れた人は、次の日は藤里口からという具合にやっぱり連携することも大事だろうと思うんですが、逆にまた、よそから白神山地に訪れた人をいかにこっちの方に呼び込むかということが非常に重要になろうかと思います。

また、リゾートしらかみが新青森駅に乗り入れされました。そのことによって、逆にストロー現象みたいに青森県側に人が流れる、北海道に人が流れて、それこそ八峰町は通過点になってしまうという懸念も大いにあります。それこそ先ほど言いました、ただ

町が通過点になるというその懸念が非常にあるんですね。ですから、その逆として青森新幹線を利用してリゾートしらかみ号に乗り継いで町の方に来てくれる人をいかに増やすかという方策が非常に大事だろうと思うんです。そういう意味でも、町独自の宿泊のプランニングだとかそういうのをやっぱり検討すべきではないかと、こう思うわけですけども、今一度その点について町の方の考えをお聞かせください。

○議長（須藤正人君）　当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君）　ご質問にお答えいたします。

おっしゃるとおり、藤里であるとか西目屋であるとか、向こうに訪れた人もまた周遊しながらこちらの方にも来ますので、できるだけそのお客を受け止める、そういう体制をですね整えていきたいなというふうには思っております。

それから、リゾートしらかみも確かに青森まで開通しましたけども、青森から秋田までという路線の中では３往復、そして現実、私もこの間、日曜日、リゾートの駅まで行って、あきた白神の駅まで行ったんですけども、リゾートはかなりお客さんが混んでいます。そういう面では乗降客もおりますし、そういった方々にですね十分働きかけをしながらリピーターになってもらったりですね、そしてまた、ＪＲの商品企画の中では、できるだけあきた白神駅を入れて八峰町内のものを活用していただけるように、そういうコース設定も入れておりますので、そういったものや、昨日の行政報告でもあきた白神体験センターの体験のメニューなども非常に好評であるという話をしましたけども、できるだけ魅力ある、そしてまた、ここに滞在できるようなそういうものを町としても企画しながら頑張っていきたいと思っていますので、宜しくお願いしたいと思います。

○議長（須藤正人君）　３番議員、再質問ありませんか。

○３番（柴田正高君）　ありません。

○議長（須藤正人君）　２問目の目的と耐用年数についての再質問ありませんか。３番柴田正高君。

○３番（柴田正高君）　教育長は、以前、学校の適正規模について質問されました。その答えとして、その答弁として、クラス替えのできる学校というお答えをされていたように思います。文科省もそのような指導だということもおっしゃったと思っております。適正、クラス替えのできる人数としますと、１学級ですね、１学級30人として１学年60名であります。小学校の場合、６×６、36、360名となりますね。それこそ2035年の年少人口が336名ですから、小学校統合しても、それこそ学校の適正規模に満たないというこ

とになるんだろうと思います。中学校は無論だと思います。それこそ多くの私立大学が、附属の幼稚園から高校までキャンパス内に設立しております。それはどうしてかというと、この学校の掲げる教育理念を幼児の頃から教えることによって、より実践しやすくなるということだろうと思います。以前、９月議会、12月議会でも取り上げましたけども、子ども園、小学校、中学校、一つのエリア内に設けるということは、教育上も非常に効率がよくなるばかりでなく、教育を行う意味においても非常に意義のあることだと思います。

それと、町の財政は自主財源に乏しく、地方交付税に依存しておるのが実情であります。しかし、その交付税も、平成28年度から一本化算定により段階的に減額となります。更に人口減少が重なって、町の財政はかなり厳しくなることが予想されます。新たに箱物を建てられる状況ではなくなるんじゃないかなと懸念しております。更に、園児が少なくなったから、新たに子ども園を町の中心地に建てて再度統合して１園にしようというわけには簡単にいかなくなると思います。それこそ、せっかく土地選定委員会の答申を受けて、八森小学校の近くに八森地区の子ども園を統合して建てても、何年か後、何十年か後には、その小学校がそこからなくなるということになれば、何のために今計画されている場所に子ども園を建てたのか判らなくなってしまうんじゃないかなという気もいたしております。ここは一度立ち止まって、将来を見据え、私が今申し上げたことなども考慮の上、ご決断されたらいかがでしょうか。町長の考えを重ねてお尋ねいたします。

○議長（須藤正人君）　２問目の再質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君）　お答えをいたします。

数字上からいってですね単純に判断すると、そういう意見もですね出てこようかと思いますけども、ただ、子ども園の性質上ですね、やっぱり本来であれば、できるだけやっぱり地域の近いところに置くというのが保育所の性質上といいますか、望ましいことだと思います。ただ、いろんな状況ありますので、一概にそれだけ維持していくというのもまた、かなり経済的にも大変だという要素があります。おっしゃるとおりに、仮にこのエリアに全部建てるとすれば、逆に新しい土地が全部必要になってきますけども、小学校の統合、八森地区の小学校の統合の場合も、今あるものをまた活用していくということもまたこれ、町にとっては必要なことだと思います。それから、子ども園に限らず、やっぱり統合の問題というのは、町の判断だけでなくて、やっぱり地域の住民であると

か保護者の皆さんの話であるとか、そういったものをですね、やっぱり十分聞きながらやっていかなきゃならないし、また、場所の問題もそうでございますけども、そういうものなしにですね、別の考え方だから全部やっていくということには、なりきれないこの問題だろうと思います。

学校の規模の適正化については、今、今年度これから話し合っていくわけですけども、おそらくやっぱりその中でも地域的な問題とか様々な問題がその中で議論されていくものだというふうにこう思っていますので、確かに今のとおりですね、もう30年後になるのかは誰も推測ですからできませんけども、現状の中で取り得る、まあいい方法といいますか、最良の方法ということで、お互いに時間をかけながら議論して今の結論を導き出したものであります。そしてまた、現に進んでいる段階でありますので、できればこの問題についてはご協力をしていただいて、できるだけ早期にですね実現できるように頑張っていきたいなというふうにこう考えておりますので、何とかひとつご理解をしていただきたいと思います。

○議長（須藤正人君）　３番議員、再質問ありませんか。３番柴田正高君。

○３番（柴田正高君）　執行権者である町長の考えが揺るぎのないようですので、なかなか難しい、私の主張は取り入れられないんだと思いますけども、それこそ私は何も経済面だけでこの近辺に子ども園を設けろと、こう言っているんじゃないんです。それこそ将来の人口減少等を勘案した場合ですね、やっぱり同じエリア内に、いずれ小学校、中学校も今言ったように少子化になってくるわけですので、遠からず統合ということが訪れるんだろうと思います。そういうことで今、学校の適正化の検討委員会も立ち上げるということだと思うんですよ。ですからね、その将来に禍根を残さないようにやっぱり熟慮を重ねて、その結果、今のところに落ち着いたというんだったらいいんですが、それこそ町長が再三言ってるように、検討委員会、土地等の検討委員会とかそういうものの答申を受けて決断したというのであればですね、当然その土地の選定委員会というのはそのメンバー、構成メンバーというのを見ますとですね、地域の代表であったり保護者であったり、当然、地元に置いてくれというのは、という結論になるんだろうと思います。こういった判断をするというのは、やっぱり長の役割だと思うんですよ。その上で最終決断を下してくださいとお願いしているわけでして、その上でそういう決断をされたというようであれば、その結果については今後の人が間違ってあったとか正しかったとか、その判断は下すんだろうと思うんです。ただ私は、石川子ども園や岩子子ども

園、岩子小学校のような二の舞をしてほしくないなという思いから、こう再三この問題を取り上げているということが実情ですので、それについて今一度、町長の、それでも私の考えは変わらないんだというんであればそれはそれで結構ですので、お願いいたします。

○議長（須藤正人君）　当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君）　お答えをいたします。

柴田議員がですね、いろいろ将来展望を踏まえて再三おっしゃっておることについては判らないわけではないんですけども、いろんなこれまでの経過とか現状、更には地域の状況など、いろんな形で踏まえて判断しましたので、是非この計画で進めていきたいと。おっしゃるとおり、良かったか悪かったかは後年のですね、30年後に評価されるか10年後に評価されるか判りませんけども、それはそれとして、まず今は計画どおりまいりたいなと思っておりますので、宜しくお願いします。

○議長（須藤正人君）　３番議員、再質問ありませんか。

○３番（柴田正高君）　はい、ありません。

○議長（須藤正人君）　これで３番議員の一般質問を終わります。

次に、４番議員の質問を許します。４番丸山あつ子さん。

○４番（丸山あつ子さん）　おはようございます。

町内の方も、或いはまた遠方からおいでの皆様方も、本日の傍聴、ご苦労様でございます。じっくり耳を傾けていってください。

それでは、４番、通告に従いまして一般質問をいたします。

１番、分収造林の植栽についてです。

現在、分収造林地での植栽は、杉・松・ナラ等です。町で計画している生薬栽培は農業部分の薬草が主ですが、林業の角度からも参画できるよう、生薬にもなり、用材としても活用できるような樹種を植栽することを奨励する取り組みをしたらいかがでしょうか。

林業界では、特に杉の景況が低迷している近年、林家の人たちが山の仕事に意欲を増すのではないかと考えられます。

次、２番目、いじめ、不登校についてです。

最近、いじめに関わる児童生徒の自殺が相次いで報道され、大きな社会問題となっています。

我が町にいじめや不登校はあるのか、現状についてお知らせください。

それから、これらの対策としてはどのようなことを行っているのでしょうか。

以上、大きく２点についてお伺いいたします。

○議長（須藤正人君）　ただいまの４番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君）　丸山議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、分収造林の植栽についてでありますが、議員のご質問にあるように町で計画している生薬栽培に林業の角度からも参画をというご提案については、私も賛成であります。また、ご指摘のように国産材の価格が低迷している中にあって、杉を植栽してもそれが収入に直結するような状況になっていないことから、町の林道も低迷しているのが現状であります。

そのような中、県では杉間伐材の利活用だけでなく、ナラなどの広葉樹についてもフローリングなどの用材として活用できるよう、事業展開をしています。町では、来年度以降、分収造林の皆伐跡地へ広葉樹の植栽を検討するところであり、国や県の補助事業メニューにおいても、地域特性に合致するような広葉樹の植栽も補助対象になるとの確認をしております。

６月に、財団法人東京生薬協会の視察研修が本町で行われ、薬用植物の専門家らが留山や二ツ森登山口等で植物観察を行いましたが、本町では樹木も含めて薬用植物の宝庫であると伺いました。東京生薬協会と生薬栽培事業についての打ち合わせでは、４品目の生薬の試験栽培のほか、町内に自生する薬草の栽培試験も計画しており、個体数の調査や種子の採取を行っております。

丸山議員からご提案いただいている今後の植栽に当たっては、生薬の原料と用材に活用できるような樹種も対象としながら、より一層、林業の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

以上であります。

後段は、教育長の方からお答えいたします。

○議長（須藤正人君）　千葉教育長。

○教育長（千葉良一君）　いじめ、不登校について、丸山あつ子議員のご質問にお答えいたします。

我が町におけるいじめや不登校の現状と取り組みについてとのご質問でございますが、

参考までに文部科学省が児童生徒の問題に関する調査に用いるいじめの定義とは、子どもが一定の人間関係のあるものから心理的・物理的な攻撃を受けたことによって、精神的・肉体的な苦痛を感じるものであり、起こった場所は学校の内外を問わないとされており、いじめか否かの判断は、いじめられる子どもの立場に立って行うよう徹底されるとしております。

いじめ等による自殺のニュースが報道されるたびに、私たちは、親や教師はいじめに気がつかなかったのか疑問を抱かれる現状があるかと思いますが、最近のいじめは、陰湿化、巧妙化、そして潜在化が進んでおりまして、いじめの実態がつかみにくい特徴でもあります。更には、思春期の子どもたちは自尊心も高く、反抗期でもあるため、あえて親や家族にいじめを打ち明けず、発見が遅れた時には修復不可能な状況になるとも言われております。いじめをなるべく早く発見して対処すること、いじめられている子どもの心に寄り添うのが親や教師の責任であります。しかし、共働きで子どもと過ごす時間が少ない両親も多く、また、いじめの発見の難しさが指摘されている現状では、いじめの発見が遅れ、その手遅れになることさえあるのが大方の実情であります。せめて今、学校では何が起こっているのか、現在のいじめの特徴を把握しておくだけでも、子どもの様子を観察する目が変わってくるのではないかと思っております。

丸山議員の１点目の「我が町にいじめや不登校があるのか」というご質問でありますが、毎月、秋田県教育委員会に報告する月例報告によると、いじめは平成23年度から平成24年度７月31日まで見ても、ゼロ件であり、学校から私に個人的に、そして教育委員会への相談件数も同じであります。更には、文部科学省の通達に基づいて８月に行った全国一斉緊急調査でも、町内小・中学校のいじめ調査の結果は、月例調査等と同様の状況であります。

また、不登校の現状でありますが、要因としては、不安と情緒的混乱、無気力、家庭環境を含めた総合的な理由などが考えられます。現在では、学習障害、多動性障害等が新たな課題として注目されており、これらの児童生徒は人間関係がうまく構築されない、学習のつまずきが克服できないといったことが進み、不登校に至るケースがあります。

八峰町の現状では、平成23年度は小・中学校合わせて４名から５名でありました。しかし、今年度は中学生１名のみとなっており、これらの事案については、いじめの関連性がなく、全て家庭環境による情緒不安定によるものと判断しております。

また、２点目のいじめ、不登校の対策としては、各学校ともいじめを防ぐ対策として、